

平成 25 年度 物価指数研究会（第 1 回）議事概要

- 1 日 時 平成25年 9 月 3 日（火） 10：30～12：00
- 2 場 所 総務省 統計局 6 階特別会議室（616号室）
- 3 議 題 (1) 最近の消費動向への対応（タブレット端末）
(2) 連鎖指数について
(3) その他
- 4 出席者 (委 員) 美添座長、舟岡委員、宇南山委員、樋田委員
(統計局) 會田統計調査部長、永島消費統計課長、栗原物価統計室長、山石首席分類銘柄情報官ほか
- 5 配布資料
書 類 番 号 1 タブレット端末の取り込み方法の検討について（案）
書 類 番 号 2 連鎖指数の充実に向けた検討について（案）
参 考 資 料 世帯主60歳以上及び65歳以上の無職世帯指数の推移

6 主な意見等

議題（1）

- タブレット端末の普及が進んでおり、ノートパソコンとの区別が難しいということからも、パソコン（ノート型）の指数にタブレット端末を取り込むことは適切であると考える。
- タブレット端末について、Android 系と iOS 系のものがあり、OS が異なると機能にも差があると思われるが、区別しなくても指数作成の回帰式の当てはまりのよさを確保できるか。
→ OS については、説明変数として iOS とそれ以外のダミー変数を用いる。
- Android 系と iOS 系のシェアの変化をウエイトに反映させるようにはなっていないが、回帰式についてはよく注意して作成してほしい。
- タブレット端末については、今後、機能を縮小した低価格帯のものが普及してくるなど状況の変化があった場合、異なる価格帯のデータにヘドニック法を適用することになるので、回帰式の当てはまりなどよく注意して運用する必要がある。

- 状況の変化については、回帰式が見直される頻度が高ければ、それほど懸念される問題ではないであろう。
- パソコンの機能は、CPU、メモリー、ハードディスクなどを用いて機種による比較をしやすいが、タブレット端末は、機種固有の機能を備えているイメージがある。このため、指数算出方法として、マッチド・モデル法を検討してはどうか。
→ 別途検討してみたい。
- タブレット端末にも、LTE や 3G といったモデルがある。スマートフォンとの境界はどう考えればよいのか。
- 今回の意見も踏まえて進めていただきたい。なお、タブレット端末の指数をヘドニック法で求めた後、パソコン（ノート型）と合成するとき算術平均を使用するか、幾何平均を使用するかについても検討しておいた方がよいと思われる。

議題（2）

- 生鮮食品の動向が反映された月次の連鎖指数を作成することは適切と考える。
- 基準年の各月の連鎖指数についても、他の年と同様に、前年 12 月価格指数と前年ウェイトによる連環指数から作成することは適切である。
- 生鮮食品の月別連鎖指数について、もし生鮮食品の価格弾力性が高い場合、ウェイトの変動が大きくなり、指数が不規則な変動になるかもしれないという懸念はある。
- 生鮮食品は、以前に比べて出回らない月がある品目が少なくなっているのではないか。イギリス等においては、生鮮食品について、月別ウェイトを使わずに年ウェイトを用いているのならば、出回りのない月の処理方法はどのように行われているのか。
→ 生鮮食品について、近年はご指摘いただいたような傾向はあるものの、特に生鮮果物は、品目によって出回らない月がある品目が少なくない。生鮮魚介では、さんまやかつお等は季節性がある。
日本では生鮮品目に月別ウェイトを採用することで出回りの有無に対応しているが、イギリス等での取り扱いについては確認してみたい。
- 月別でウェイトが変わる生鮮食品について、連鎖指数を月別に作成するのは難しい課題。算式も含めてさらに検討を進めてほしい。
→ 次回基準改定に向けてさらに検討したい。

議題（3）

- 今後、年金受給世帯が多くなると考えられる。60～64歳の世帯と65歳以上の年金受給世帯の比較などができるようになると利用上も有用であると考え。

以上